

NPO法人まほろば教育事業団・理事長

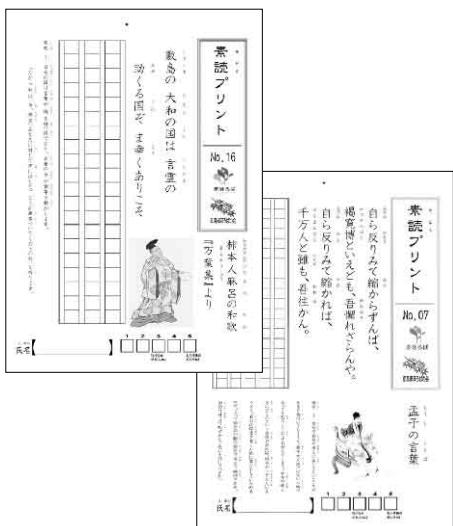
学習院女子大学教授 畠山圭一

言葉が軽々しく使われるこの時代ですが、言霊という言葉があるように人は言葉に魂を託すというのが日本人の考え方でした。言は創造の営みによって作り出され、言葉はその発端であると言えましょう。素読により瑞々しい感性の古の人たち、素晴らしい先哲たちの言霊を感じ、それを子供たちが受け取つて心に蓄えていくことは、言語教育という枠を大きく超えたものなのです。ぜひ言葉を感じてみていただきたいと思います。

広島まほろばの会・顧問

広島大学医学部教授 河野修興

言葉の力をつける…というのは、まさに「力をつける」という部分が示すように、スポーツの基礎練習と類似しています。優れた「型」を体得するためによい体の動かし方をする、これは素読で言えば「優れた言葉を体得するために優れた言葉を復唱する」ということになります。素読は単なる言語教育ではありません。言葉の栄養を摂取することにより、自立・自律の精神が育ちます。楽しくのびのびと素読をしてみてください。



「日本の心を伝える素読の実践を」

広島まほろばの会 代表世話人 松田雄一

まほろば小学生合宿において中心的な講座となるのが「素読」です。

素読(そどく)というのは、ただ単に文章を声に出して読む、それだけのことですが、世界各国では初等言語教育の中核をなすもので、かつての日本でも寺子屋の風景に見られるように、重要な地位を占めていました。

しかし、現在の日本の中では素読であるとか古典の学習であるとか、そういう分野は優雅なものであると考えられたり、あるいは入試に役立たないという理由で無用のものと考える方も決して少なくありません。

東日本大震災から一年。今思うのは、こんな時であるからこそ、しっかりと素読をしたいということです。

日本人の規律正しい言動や、つらい境遇でも凛として生き、秩序を失わず、感情に任せて取り乱したりしない、困っている自分よりももっと困っている他者を心づかう被災者の精神性が諸外国から称賛されています。このようなわが国の国民性は昨日できたものではありません。日本を築いてきた先人たちが累々と伝え、昇華させてきた「日本人の生き方」なのです。

素読によって古典の中から、日本人がいかに困難を乗り越えてきたのか、どうやってみんなで協力してきたのか、人を思いやるとはどういうことなのか…ということを学び、次世代に伝えねばならないという思いを強くしています。

今だからこそ伝わるものも多いと思います。

その心を次世代に伝えたいまつの火を次のたいまつにつなげるような取り組みは必ず必要です。こういう心の伝承があつて、今の悲惨であつても凜とした被災者の心のだと思います。心が伝わらねば、略奪や暴力が横行するような災害地がやがて出現するかも知れません。

そして心を伝える手段として優れているのは素読だと思います。道徳教育の重要性については私も認識しているのですが、往々にして「お説教のような」「押しつけがましい」道徳となってしまい、子供の心に残らないという結果になってしまいます。素読は本当に心に染み入ります。

素読担当講師より

言葉の力で、言葉の栄養で人間としての力が満たされ、そして凛とした生き方が意識できるようになります。

平成二十四年は古事記編纂一千三百年の節目です。『古事記』にも生きるヒントが数多く隠されています。また、子供たちがわくわくしながら、また大人が興味をもつてのめりこんでしまうような、そんな神話が『古事記』の中にはあります。今年は『古事記』に親しみ、大人も子供も『古事記』について考える機会とする絶好のチャンスです。

不思議なことです。が、米国や仏国、中国がいつ誰によつてどのような経緯で建国されたのかを言える日本人は多くいるのですが、当の日本については何も知らないという悲しい現状があります。

もとと日本のことを探りたい!と思う人が増えています。日本の心をつなぐためにも、我々日本のルーツを知ることの大変に重要なことです。そのためにはまず『古事記』をひも解くことから。

今年のまほろば小学生合宿では『古事記』を楽しく学びます。どうぞ期待ください。

素読で古典樂しちゃう

平成23年2月15日付の中国新聞朝刊にて「素読の集い」が紹介されました。